

2019年度

保育科の教育活動に関するアンケート

(卒業年次アンケート 分析結果)

1. 授業（学修）に関すること

本学で開講している科目数や種類（Q1）に対する満足度は、5点満点中4.63点と高く、多くの学生が満足していたと思われる。一方、授業の時間帯や1週間の時間割の中での密度（Q2）に対する満足度は下がり、短大の保育者養成校特有の過密さを感じていた学生も一定数いたと考えられた。

印象に残っている科目（Q3）について尋ねると、「身体表現」が最も多く挙げた。また、学修を深めたかった事項（Q4）としては、「ピアノ」や「造形活動」が多かった。これらの結果から、学生には、本学の独自性の一つである「表現力」に関連した学修が強く印象に残っていると思われる。

授業に関する総合的な満足度は、5点満点中4.63点（有効回答の74％が最高評価）と非常に高く、不満に感じている学生は一人もいなかった（「やや不満」や「不満」と答えた学生がいない）。しかし、このような高い満足度の反面、クラスによる学修機会や行事の増加を求める声もあった。

今後は、学びや学校生活のさらなる充実に繋げるためにも、時間割の調整や、クラス単位で取り組む授業科目や行事の増加を検討するなど、カリキュラム上の工夫を積極的に行っていきたい。

2. 学生生活に関すること

(1) 教職員の学生対応やクラス制、友人関係に関すること

教職員の学生対応（Q7, Q8, Q11）に対する満足度は、5点満点中4.50点以上と高く、学生と教職員との良好な関係性をうかがい知ることができた。同様に、クラス制（担任：Q8, クラス編成：Q10）に対する満足度も高かった。教職員と学生との関係性やクラス制への満足度は、後述する「コマジョらしさ」の一つとしても挙げられている（「4. 総合的な振り返り」を参照）。

その一方、友人関係（Q9）に関しては、「普通」と答えた学生が11名おり、学生の友人関係の持ち方について、若干の配慮が必要だと思われる。

(2) 施設や設備に関すること

学生食堂や図書館、授業時間外の居場所、バスなど、施設・設備に関する満足度を尋ねると、全体的に、学生の満足度は低かった。具体的には、学生食堂のメニューや値段、図書館の蔵書、バスの運行時間や本数が挙げられる。

また、学生からは、通信環境（W i f i）の整備や、学生が主に利用する80周年記念館の設備に関する要望が挙げられており、学修環境の充実という観点からも、バスの運行時間や本数、通信環境（W i f i）などについては、早急に対応を検討する必要があると思われる。

3. 就職支援に関すること

教職員による就職支援に対して「やや不満」や「不満」と回答した学生はおらず、大半の学生が、教職員の就職支援に満足していることが分かった（Q19, Q20）。

同様に、就職ガイダンスやセミナーに対する満足度（Q 2 1－2）も高かったが、これらに「全く参加していない」学生がいたことも明らかとなった。今後は、ガイダンスやセミナーの内容的な充実を図ることはもちろんのこと、学生への周知方法や実施時期を工夫し、より多くの学生が参加するように促していきたい。

4. 総合的に振り返って

Q 2 2では、これまでの授業や学生生活などを振り返り、学生が抱く「コマジョらしさ」とは何かを尋ねた。その結果、教員の温かさや親しみやすさ、クラスの雰囲気の良いなど、「人間関係の良さ」が最も多く挙げられた。次には、身体表現や遊び、仏教など、本学の建学の精神やディプロマ・ポリシーに関連したものが多かった。この他には、楽しさ・明るさ・元気といった「全体的な雰囲気の良い」や学園周囲に広がる豊かな「自然」が挙げられた。

Q 2 3では、授業や学校生活に対する2年間の総合的な満足度を尋ねた。その結果、「やや不満」や「不満」と答えた学生は一人もおらず、43名（有効回答者の88%）の学生が、「満足」もしくは「やや満足」と答えた（5点満点中4.57点）。

良好な人間関係を土台としながら、「表現」や「遊び」、「仏教」などをキーワードとした学びを展開しているのが本学の教育活動の独自性である。ご協力いただきました卒業生のみなさんからの意見を真摯に受け止め、今後も、よりよい教育活動を展開できるように努めてまいります。